

## 第1回千葉科学大学公立大学法人化検討委員会 会議概要

1 日 時 令和6年4月14日（日）14：30～17：00

2 場 所 銚子市保健福祉センター 2階会議室

3 出席者

○委員 10名出席

|          |   |          |   |          |   |
|----------|---|----------|---|----------|---|
| 太田 康広 委員 | 出 | 小栗 一徳 委員 | 出 | 高岡 正幸 委員 | 出 |
| 田村 秀 委員  | 出 | 矢尾板俊平 委員 | 出 | 伊藤 晴美 委員 | 出 |
| 齋藤 隆広 委員 | 出 | 野本 春道 委員 | 出 | 林 広幸 委員  | 出 |
| 松本 恭一 委員 | 出 |          |   |          |   |

○銚子市

市長、副市長、企画課長、財政課長、企画室長

○学校法人加計学園・千葉科学大学

専務理事、学長、副学長、副学長、大学事務局長ほか

○傍聴者 118名

○報道関係者 12名

### 4 会議内容

(1) 開 会

(2) 市長あいさつ

昨年10月11日、学校法人加計学園から千葉科学大学の公立大学法人化に関する要望書が銚子市に提出をされた。公立大学法人化した私立大学は、安価な学費による募集力により入学定員を上回る入学者を確保し、地方交付税を財源とした運営交付金により財政的にも安定した大学運営をしている、大学が東総地区の知の拠点として存続をし、地域活性化の一翼を担う役割を果たすため、千葉科学大学の公立大学法人化を求める、このような趣旨の要望であった。

公立化のメリットが考えられる一方で、2022年時点で112万人あった18歳人口は、2040年には82万人まで減少する見込みである。2023年の出生数が約76万人となったことを勘案すると、その後も18歳人口と受験人口の減少が続き、私立大学のみならず、公立大学においても経営は厳しさを増し、入学者確保が困難になることが予想される。国の交付税措置の動向も不透明である。千葉科学大学は多額の費用を銚子市が助成して誘致した大学であり、公立化する、しないにかかわらず、大学の継続は誰もが望んでいる。多くの効果も認められる。しかし、将来に渡って市が責任を持つ公立化については、楽観的な見通しではなく、客観的なデータや専門的知見に基づき、厳しく精査する必要がある。千葉科学大学の現状、公立化のメリット・デメリット、効果やリスクを洗い出し、多角的に慎重に検討を進める必要がある。

何よりも公立化を図るためには、市民の合意が不可欠である。委員の皆様には、銚子市にとって市民にとって何が最善なのかという見地に立って、千葉科学大学の公立大学法人化の可能性、並びに今後の千葉科学大学のあり方について、忌憚のないご意見をいただきたい。

(3) 委員紹介

(4) 諮 問 市長から委員長に諮問書を交付

(5) 議 事

ア 千葉科学大学の公立大学法人化に関する要望について

イ 千葉科学大学の現状とこれまでの取組について

【事務局】資料4・資料5について説明

【学園・大学】千葉科学大学が長く銚子市の地で永続することを強く望んでいる。公立化することのできるのであれば、教育研究及び経営を含めた管理運営について、教員、職員ともに全面的に参加協力したい。公立大学法人化後、加計学園が参加協力をするのが可能であれば、安価な学費による募集力強化とさらなる大学改革により入学者を確保し、より一層の地域貢献を行い、学生からの学納金と国からの地方交付税を財源とした運営費交付金により財政的にも安定した大学運営に協力をしたい。反対に公立化できないということであれば、来年度から撤退をするということも考えないといけないと思っている。

資料６－１・資料６－２・資料６－３について説明

【委員】千葉科学大学は、銚子になくてはならないものだと思っている。どのような形であっても続けていかなければならないと思っている。このような状況となった理由を教えてください。

【学園・大学】競合校の増加により、できるだけ近場または都市部に向けて受験生が動き出している。この環境の激変を捉えることができなかったことが反省点である。また、様々な取組は行ってきたものの、発信力も足りなかった側面がある。定員は未充足ではあるが、入学した学生の満足度は高いと考えている。

【委員】来年度撤退の意味は、令和８年度募集を停止するというお話なのか、令和７年３月で閉学をするという意味なのか。

【学園・大学】当然、在学生に対しては卒業するまで教育研究の場を提供していく。募集停止ということ。入学した学生が国家試験に合格するまでは責任を持って育てていきたい。浪人した学生に対しても予備校と提携して学生の成績を逐次把握している。大学の方から学生一人一人に声をかけて、合格するまでフォローする体制をとっている。私どもは教育者であり、最後まで教育していく。

【委員】資料６－１の３ページを見ると、学生数の推移では、2018年度くらいから黄色信号だったのではないかと。公立化の議論はその段階からしなければいけなかった。一時的には留学生で持ち直していたと思うが、継続できていない状況である。どのような判断であったのか確認したい。

【学園・大学】後から分析すればそのようなことだと思うが、日本人学生の募集が低迷しているときに外国人留学生で補うのは、一般的なことだと思う。加計学園グループでは、国際交流を推進していた中で2016年度ぐらいまでは東南アジア諸国に拠点を置いて、その拠点からダイレクトに各大学に振り分けるというやり方をしていた。2018年度・2019年度は、国内の日本語学校で勉強している外国人留学生にリクルートをかけ始めて、その結果が出てきた時期である。

【委員】資料６－１の４ページでは、７年間赤字であるとの説明だが、大学では、将来の大規模改修や新たな建設のための内部留保があると思う。それがどれくらいあるのか情報が必要ではないかと指摘しておく。

【委員】資料６－１の１０ページの自治体人口から見た公立大学について、都留文化大学は特殊な事例で、これを出すのはミスリードになってしまう。山口東京理科大学や福知山公立大学についても、公立化の時点では、もっと定員が少ないはずで、それを示すべきである。現在の千葉科学大学の規模は、公立大学に置き換えるともものすごく大きい。入学定員では、101校の中で15番目になる。

【委員】公立化のメリットについて説明をいただいた。他方で全国の大学の状況、個別の大学の状況などいろいろと見ていかなければならない。今後、公立大学協会の資料を用意いた

だと、全国の公立大学がどういう運営をしているのか分かるが、地方交付税以上の持ち出しをしているところが過半数である。

【委員】大学のホームページでは、令和6年度入学生284人、昨年度よりは少し増えている。資料6-2の8ページの入試方法別入学者数では、一般入試はほとんどいない。これが令和6年度はどうなっているのか、3学部6学科の内訳、充足率はどうなっているのか。留学生の割合はどれぐらいになっているのか。次回までに出していただきたい。

【委員】千葉科学大単体の貸借対照表は、早く出してもらわないと判定のしようがない。それ以外にも、損益計算書、正味財産増減計算書、キャッシュフローベースではなくて採算ベースのものを出してもらいたい。できれば将来的なシミュレーションをいただきたい。これがないと議論にならない。

【委員】公立化が認められなければ来年度募集停止というのは、強烈なプレッシャーがかかる。3年か4年猶予がある段階で相談ができなかったのか。

【委員】地方交付税交付金は、普通交付税なのか。計算の根拠は学生数でよろしいか。

【事務局】実際には総額の話になってしまうが、基本的には基準財政需要額に算入されて普通交付税で市に交付されると考えていただいた方がわかりやすいと思う。計算の根拠は、学部ごとに異なる単価に学生数を乗じて算定されるとご理解いただければと思う。

【委員】つまり学生が集まらなければ、普通交付税で入ってくるお金も減る、学生数に応じて交付されるということか。

【事務局】そのとおりである。

【委員】創設20周年ということで、施設の雨漏りなど老朽化が目立ち始める時期である。老朽化に伴うコストがどんどん増えていく。それが財務シミュレーションの中でどのように見込まれているのか。そこに多くの市民の方が関心を持っている。その試算をきちんとしないといけないと思っている。

【学園・大学】老朽化については、現在、空調の改修を進めている。それ以外にも毎年対応をしており、億単位をもって施設の充実という形で対応をしている。

【委員】施設設備への投資については、更新の時期や費用が財務シミュレーションの説明として必要だと思う。

【委員】大学の経営は、先を見据えて資金計画を立てないと厳しい。非常に苦労はあると思う。本日視察をしたが、あの施設を幽霊屋敷にはしたくないと思う。

【委員】公立化で学費が安くなることで学生が増えるという因果関係について、今後は18歳人口が減ってくる中で、この計画が満たされないような気がする。

【学園・大学】これまでに私学から公立化した大学の定員充足率などの推移を見ると、公立化により学費が安くなったことが大きく影響していると思う。

【委員】公立化をお願いするのであれば、採算が取れない学部や学生が集まらない学部を再編しスリムにしてからお願いするのが筋ではないかと思う。

【委員】資料6-2の9ページの学部別入学定員充足率について、薬学部と看護学部が全国や地域別の状況と比べても、著しく下がっている。その要因を分析して、次回ご説明いただきたい。

【委員】公立化したとしても、魅力ある大学づくりをしていかないと続かない。どのような改革を考えているのか。

【学園・大学】大学の改革と魅力づくりについては、この地域で必要な人材養成を考えていかなければならないが、これからの課題だと思っている。当面は、経営的に学生を確保すること

が第一、それから地域貢献を目指すということはこれまでと変わらない。現段階で示すことはできていない。公立化した場合には、私立大学と違って設置認可の要件も緩和されるので、その中で弾力的な運用が考えられる。学部的全体的な再編も視野に入れている。

【委員】まだ決まっていないと思うが、イメージとしては、銚子市が設立主体となり公立大学法人を作る。加計学園がマネジメント契約のような形で関わる。ある程度運営をされるという話でいいのか。教職員が全員入れ替わるというのは現実的ではないと思う。

【学園・大学】まだ決まっていない。公立大学法人の設立者は市であり、市が理事長を選考することになる。加計学園が直接それに関わっていくということは、制度的には難しい。基本的に今いる教職員がそのまま残って運用していく、設置者が変わるという形になる。

【委員】公立大学法人化すると、教職員の方は公立大学法人と雇用契約をするのか、それとも加計学園との雇用契約の中で出向のような形で協力をいただけるのか。

【学園・大学】独立行政法人なので、基本的には公立大学法人で雇用するという形になる。現在働いている教職員の中には、岡山から出向してきている教職員もいるので、本人に意向を聞いて、処理していかなければならないと考えている。

【委員】公立化した後、市の財政負担がないように、大学運営で収支不足が発生した場合には、加計学園からの貸付けで赤字分を補填し、黒字になった場合には返却してもらうことを考えないといけないとお話があったと思う。それはどういう契約で、マネジメントとして関わってなくてもできるのか。

【学園・大学】今の段階では何も決まっていない。加計学園に参加協力をお願いしたいということであれば、全面的に協力したい。運営費交付金などで黒字になれば、独立行政法人なので、法人が管理するということでもいいのではないかと。加計学園として全面的に協力したいという考えは変わっていない。

【委員長】実際にそういったことが可能なのかということは検証が必要だと思う。そこは慎重な議論が必要だと思う。

【委員】学部学科の再編を考えた場合、そのリスクを誰が負うのか雇用の問題があると思う。スリム化してから公立化ということであれば加計学園のリスクだが、今のまま公立化して、市のリスクでやるのかということも検討しなければならない。

【委員】学部ごとの資金収支や事業活動収支の状況の過年度推移を資料としてお願いしたい。再編の議論をするのであれば、これがないと机上の空論になってしまう。

【委員】危機管理学部は、学科やコースによってかなり特色が違ってくると思う。パイロット養成と動物看護師では、ビジネスモデルやキャッシュのパターンが全然違うと思うので、学部ごとではなく、できれば学科ごとなど、もう少し細かいレベルでいただきたい。

【委員】公立化後の組織がきちんと経営していけるのか、経営するための組織人材がいるのか疑問がある。

【事務局】公立大学は、直営する場合と地方独立行政法人を設立してその法人が運営主体になる場合がある。公立大学を設置運営するために設立された地方独立行政法人が公立大学法人である。公立大学法人は、市が全額出資して設立することになり、理事長は市長が任命することになる。最終的には設置者である市が責任を持つことになる。経営については、理事長の手腕によるところが大きいと思う。

【委員】例えば3年間くらいかけて学部学科をスリム化して、赤字を減らしながらやって行くという選択肢はないのか。

【学園・大学】平成16年度から令和4年度までの資金収支を見ていただいても、千葉科学大学と

して内部留保というのは難しい状態である。赤字については加計学園全体で対応しているという状況である。そのまま私学で運営するというのは非常に厳しいということで、何年か前から検討し、公立化がよいのではないかという結論に至って、昨年 10 月 11 日に要望書を出したというのが流れである。

【委員】国家試験の合格率の資料を出していただきたい。例えば昨年度の看護師や薬剤師の国家試験の合格率を分かる範囲で教えてもらいたい。

【学園・大学】今年 3 月の段階で、看護師は 89 名受験し合格者が 70 名、合格率が 78.7%。保健師は 20 名受験し合格者が 19 名、合格率が 95%。愛玩動物看護師は 9 名受験し合格者が 8 名、合格率が 88.9%。薬剤師は 53 名受験し合格者が 21 名、合格率が 39.6%。臨床工学士は 16 名受験し合格者が 12 名、合格率が 75%。臨床検査技師は 20 名受験し合格者が 14 名、合格率が 70%。救急救命士は 28 名受験し合格者が 21 名、合格率が 75%という状況である。

【委員】学生が集まらない理由は、学費だけの問題なのか、他にもいろいろな要因があるのではないか。課題があれば教えてもらいたい。

【学園・大学】国家試験の合格率は、ものすごく大きな要因を占めている。各学部とも来年度に向けて 3 月くらいから全面的に国家試験合格率を上げるために全力で取り組んでいる。また、地元からの入学者が減っている。それを回復させるために地域での連携を進める。それから教育内容の改善をもっと推し進めて、宣伝していくことで、教育改革の結果も広報していかないとけない。

【委員】市内に高校が 3 校あるが、千葉科学大学に進学する多くの生徒の理由は、自宅から通え、生活費が抑えられるなど経済的な要因が一番大きいと思う。当校では、多くの生徒は第 2 希望、第 3 希望という形で受験する。全国的に高校生の受験生の数が減っているので、第 1 希望に入りやすくなっていることから、合格しても進学はしていないというところが大きいと思う。

【委員】千葉科学大学は地元になくてはならない大学である。絶対続けていくことが必要である。加計学園が続けてくれれば一番よいが、公立化した場合には市の財政が豊かではないので非常に難しい。この委員会でいろいろ相談して進めて行きたいと思う。

【委員】過去に公立化を検討した事例では、全て公立化しているわけではない。公立化が実現しなかった事例では何か理由があると思う。委員だけでは全てカバーしきれないので、市の方でもぜひ情報を集めていただければと思う。

【委員】市民の立場からは、公立化した場合の市の財政の持ち出し、これがなければ一番よいが、施設設備の更新で赤字が出る分を、全部加計学園が持ってくれるのかははっきりしていただきたい。

【委員】公立化した大学の管理運営のためには、市役所の中に 4・5 名の専任職員が必要になる。さらに、マネジメントのため大学の事務局に市職員が複数出向する必要も出てくる。そういう部分があることも一応論点として置いていただきたい。

【委員】学納金のシミュレーションでは、他の公立大学で設定している授業料まで下げる予測だと思う。国立大学の授業料も弾力化されており、2 割増まで可能となっている。必ずしも他と同じ学費にする必要はないのではないか。

【委員長】これについては今後の議論だと思う。ご意見として承っておく。

【委員】千葉科学大学が撤退という形になると、銚子市の財政が相当ダメージを受けると思う。学校のことも大切であるが、市への経済効果なども合わせて検討していきたい。

【委員長】撤退というような発言をされると、検討委員会での議論がかなり制約をされてしまう。

委員長としては遺憾に思う。今後そういった発言はご配慮いただきたい。

【委員長】公立大学化について、地域における大学のあり方、銚子市にこの大学があることの意義は何なのか、市民の皆さんにとってどういう意味があるのか、考えていかなければならない。公立大学化した場合のメリットとデメリット又はリスクというものもしっかり見極めながら、検討していく必要があると思う。

(学校法人加計学園・千葉科学大学 退出)

#### ウ 今後の検討委員会の進め方について

【事務局】資料3について説明

【委員】次回の検討委員会も加計学園・千葉科学大学は出席するのか。

【事務局】本日の宿題について資料を作成した上で、説明のため出席するよう市から依頼する。

【委員】できるだけ学部・学科の単位で議論しないと具体性がなく、議論がうまく回らないと思う。18歳人口など大きい話をしても進まないと思うので、よろしくお願いします。

【委員長】基本的には資料3のスケジュールで進めていきたい。加計学園の資料だけでは議論するのは難しいと思う。市の方でも資料を整えていただきながらスケジュールを組んでもらいたい。必要に応じてテーマの追加をしていきたいと思う。今回の問題では市民の皆さんがどう感じているのかが非常に重大な問題だと思う。今日も多くの市民の皆さんにご参加いただいている。こうした皆さんの気持ちに添って議論を進めていきたい。ご意見を伺える機会があればよいと思うが、事務局とも相談をさせていただきたいと思っている。最終的には銚子市のためにどうするのかということが重要だと思うので、そういった視点で議論していきたいと思う。

#### (6) その他

【事務局】次回以降の会議日程について、第2回の会議は5月12日(日)を予定している。時間・場所が決定したら開催通知でお知らせさせていただく。第3回の会議は6月30日(日)の予定となっている。第4回の会議は7月28日(日)、第5回の会議は8月25日(日)というように予定させていただきたい。

#### (7) 閉 会